

7. 福祉の重層的支援体制について

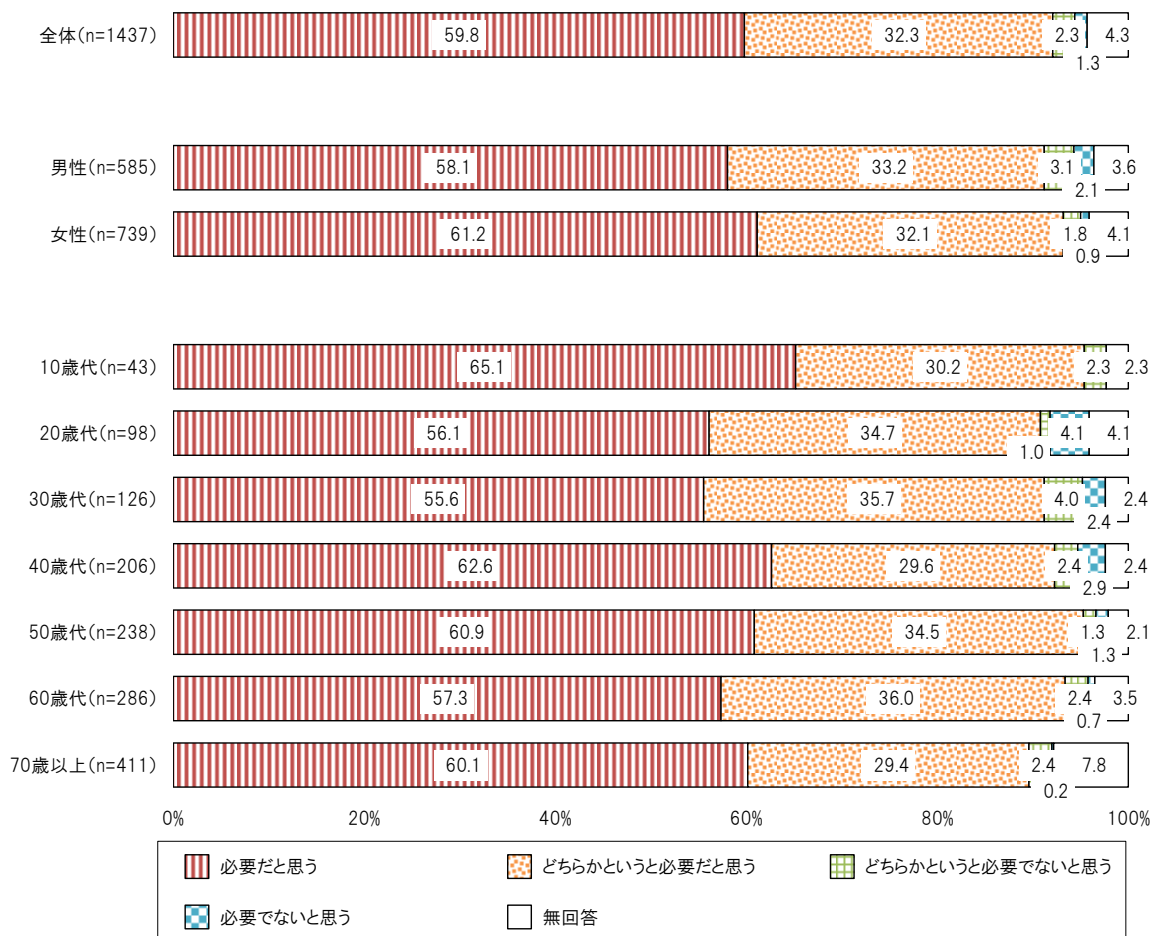
問 26 身近な地域で相談を受け止める取組（重層的支援・福祉まるごと相談室）は必要だと思いますか。（〇は1つだけ）

全体では「必要だと思う」が59.8%で最も高く、ついで「どちらかという必要だと思う」が32.3%、「どちらかという必要でないと思う」が2.3%となっている。

性別にみると、「必要だと思う」「どちらかという必要だと思う」の合計の割合は、男性が91.3%、女性が93.3%で女性の方が男性より2.0%ポイント高くなっている。

年代別にみると、「必要だと思う」「どちらかという必要だと思う」の合計の割合は、50歳代で95.4%と最も高くなっており、ついで10歳代で95.3%となっている。一方で70歳以上が89.5%で最も低くなっている。

問26 重層的支援・福祉まるごと相談室の取組は必要だと思うか



問 27 あなたは今、どのようなことでお困りですか。（〇は3つまで）

全体でみると「病気や健康に関すること」が33.1%で最も高く、ついで「困っていることはない」が27.6%、「経済的な問題に関すること」が20.1%となっている。

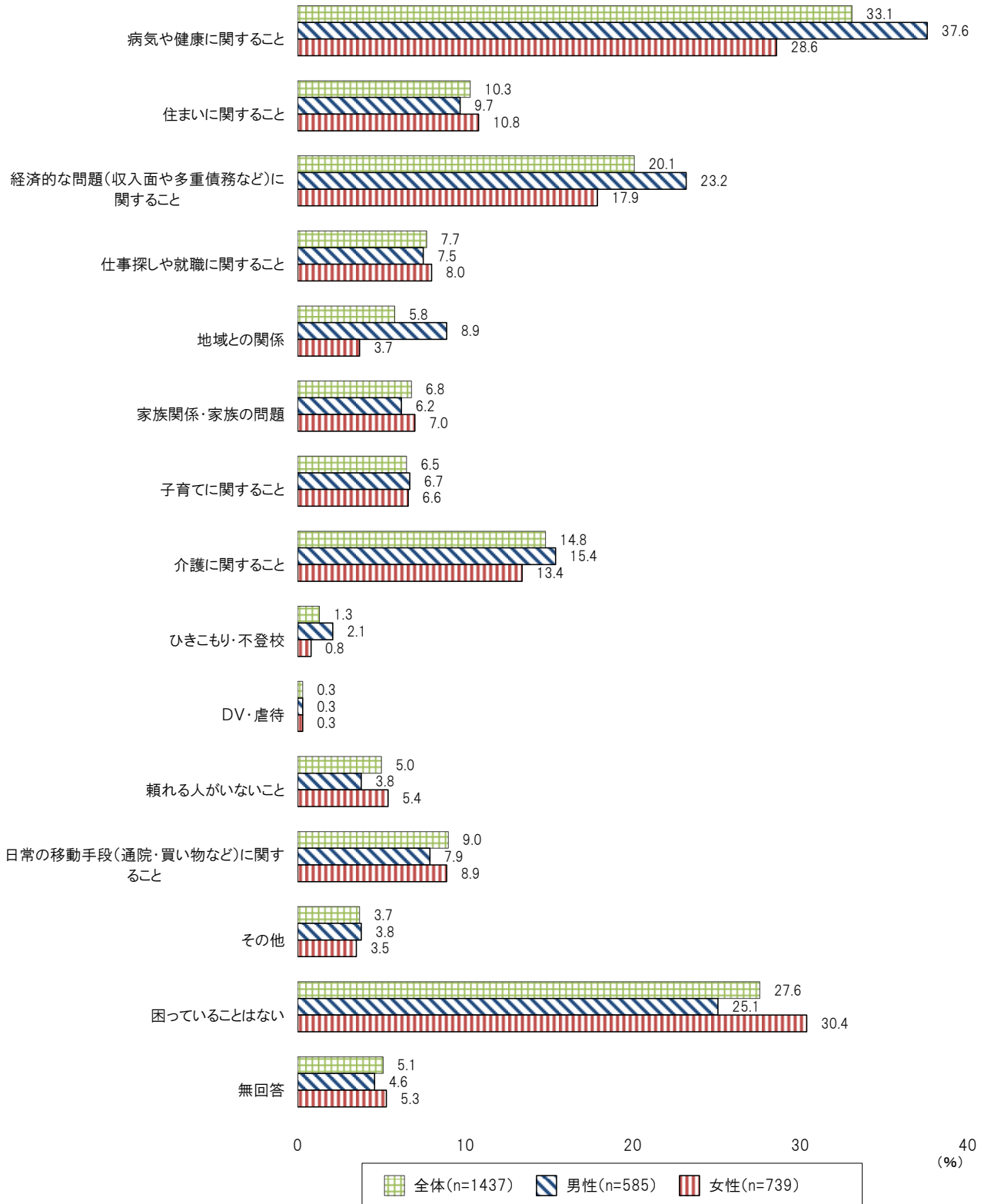
性別にみると、3番目以内に入ってくる項目は同じで「病気や健康に関すること」「困っていることはない」「経済的な問題に関すること」であったが、1番目の項目は男性では「病気や健康に関すること」、女性では「困っていることはない」であった。男女の間で差が大きかった項目は、「病気や健康に関すること」で9.0ポイント、「経済的な問題に関すること」で5.3ポイント男性の方が高く、一方で、「困っていることはない」で5.3ポイント女性の方が高くなっている。

年代別にみると、いずれの年代でも「困っていることはない」は3番目以内に入っている。「病気や健康に関すること」は30歳代を除く年代で入っている。10歳代から50歳代では「経済的な問題に関すること」が3番目以内に入っており、60歳代、70歳以上では「介護に関すること」が3番目に入ってきている。

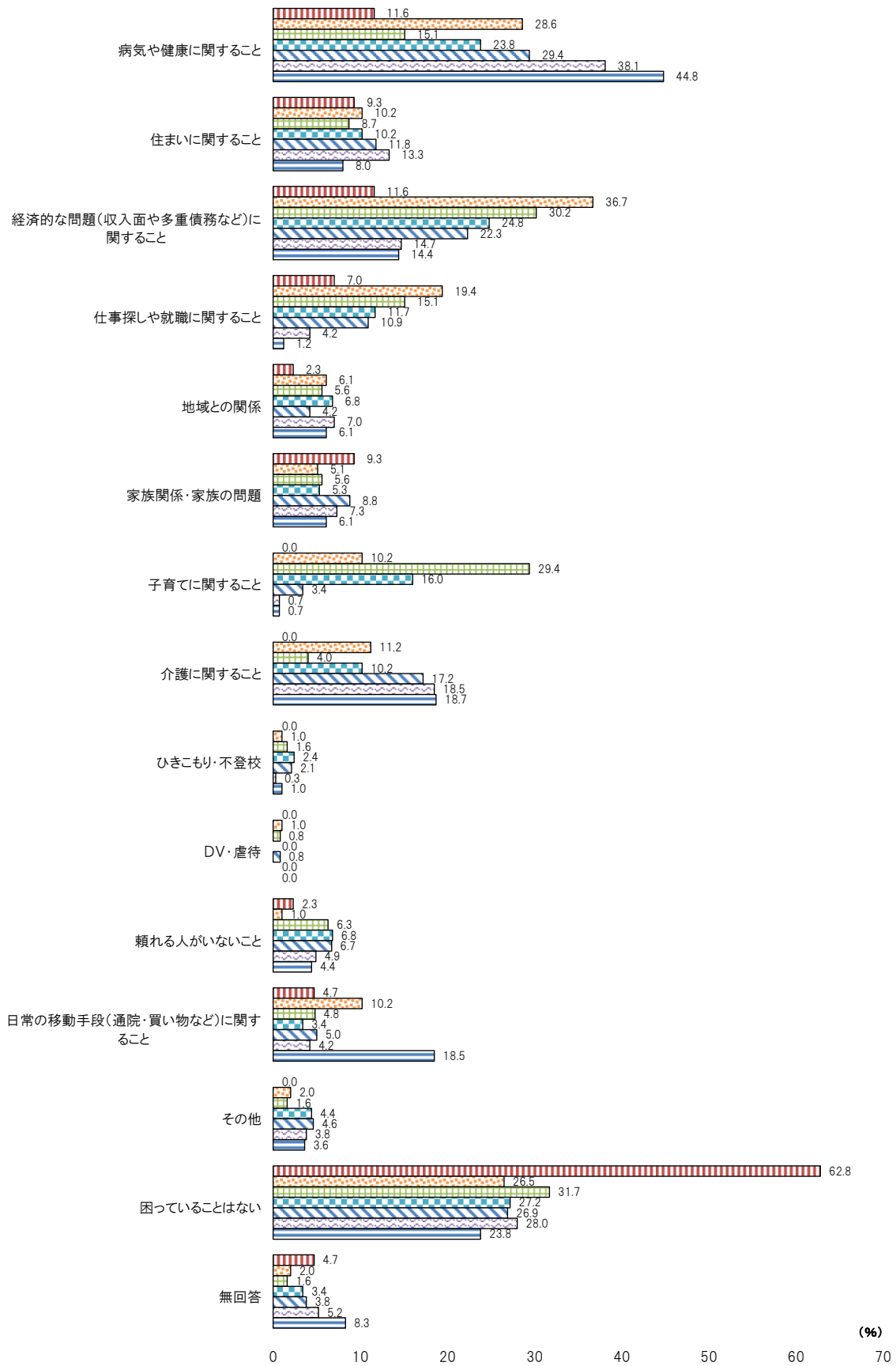
<年代ごとの上位3項目>

	1 番目		2 番目		3 番目	
10 歳代	困っていることはない	62.8%	病気や健康に関すること	11.6%		
			経済的な問題（収入面や多重債務など）に関すること	11.6%		
20 歳代	経済的な問題に関すること	36.7%	病気や健康に関すること	28.6%	困っていることはない	26.5%
30 歳代	困っていることはない	31.7%	経済的な問題に関すること	30.2%	子育てに関すること	29.4%
40 歳代	困っていることはない	27.2%	経済的な問題に関すること	24.8%	病気や健康に関すること	23.8%
50 歳代	病気や健康に関すること	29.4%	困っていることはない	26.9%	経済的な問題に関すること	22.3%
60 歳代	病気や健康に関すること	38.1%	困っていることはない	28.0%	介護に関すること	18.5%
70 歳以上	病気や健康に関すること	44.8%	困っていることはない	23.8%	介護に関すること	18.7%

問27 現在どのようなことでお困りか



問27 現在どのようなことでお困りか



問 28 あなたは将来について、どのような不安がありますか。（〇は3つまで）

全体では「健康に関すること」が51.1%で最も高く、ついで「収入・家計に関すること」が38.6%、「介護や医療に関すること」が32.8%となっている。

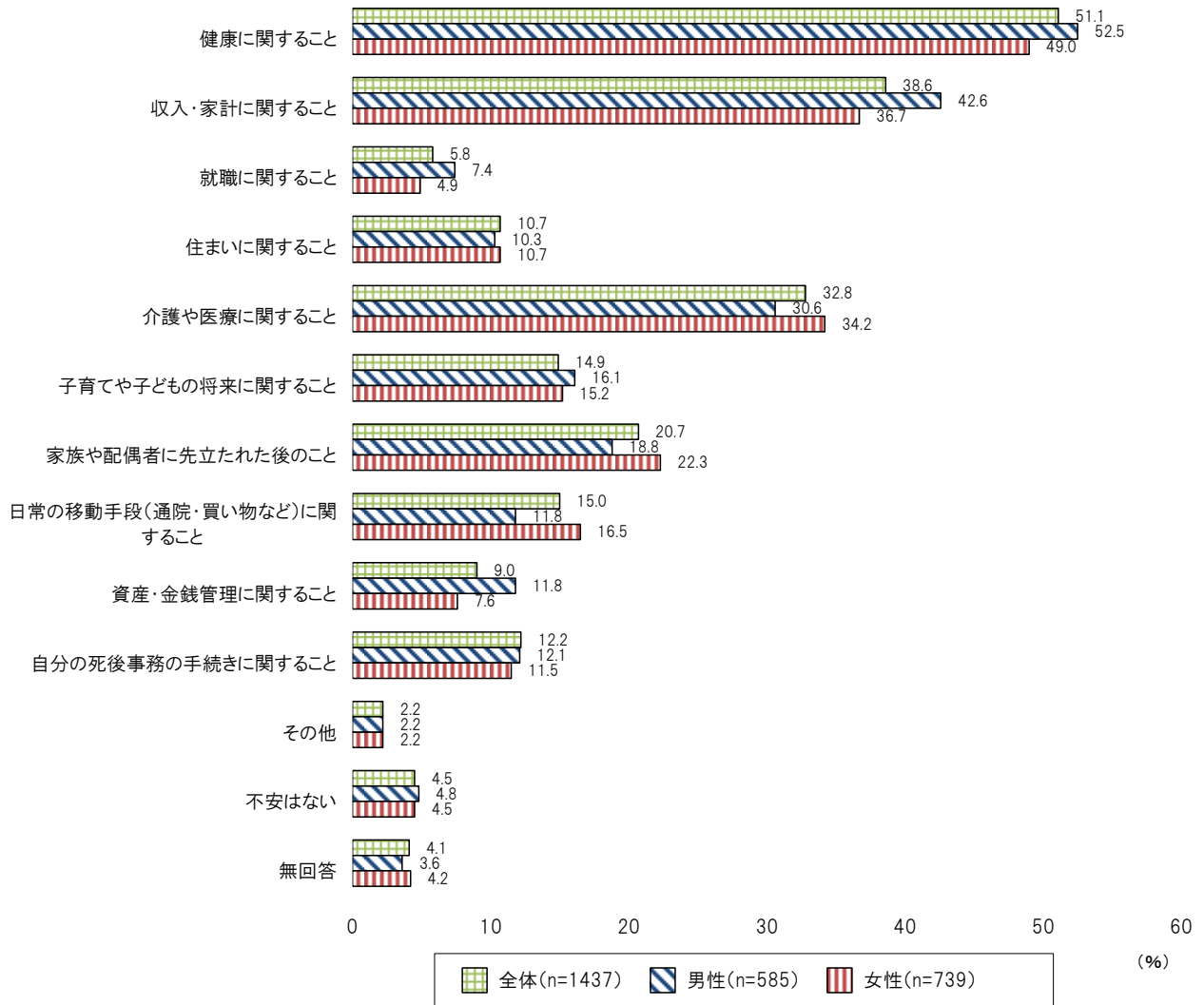
性別にみると、3番目以内に入る項目は、項目、順番ともに同じであった。男女の間で差が大きかった項目は、「収入・家計に関すること」で5.9ポイント、「資産・金銭管理に関すること」で4.2ポイント男性の方が高く、一方で、「日常の移動手段に関すること」で4.7ポイント、「介護や医療に関すること」で3.6ポイント女性の方が高くなっている。

年代別にみると、いずれの年代でも「健康に関すること」は3番目以内に入っている。「収入・家計に関すること」は70歳以上を除く年代で入っている。10歳代では「就職に関すること」が1番目であり、20歳代、30歳代、40歳代では「子育てや子どもの将来に関すること」が3番目以内に入っている。70歳以上では「日常の移動手段に関すること」が3番目となっている。

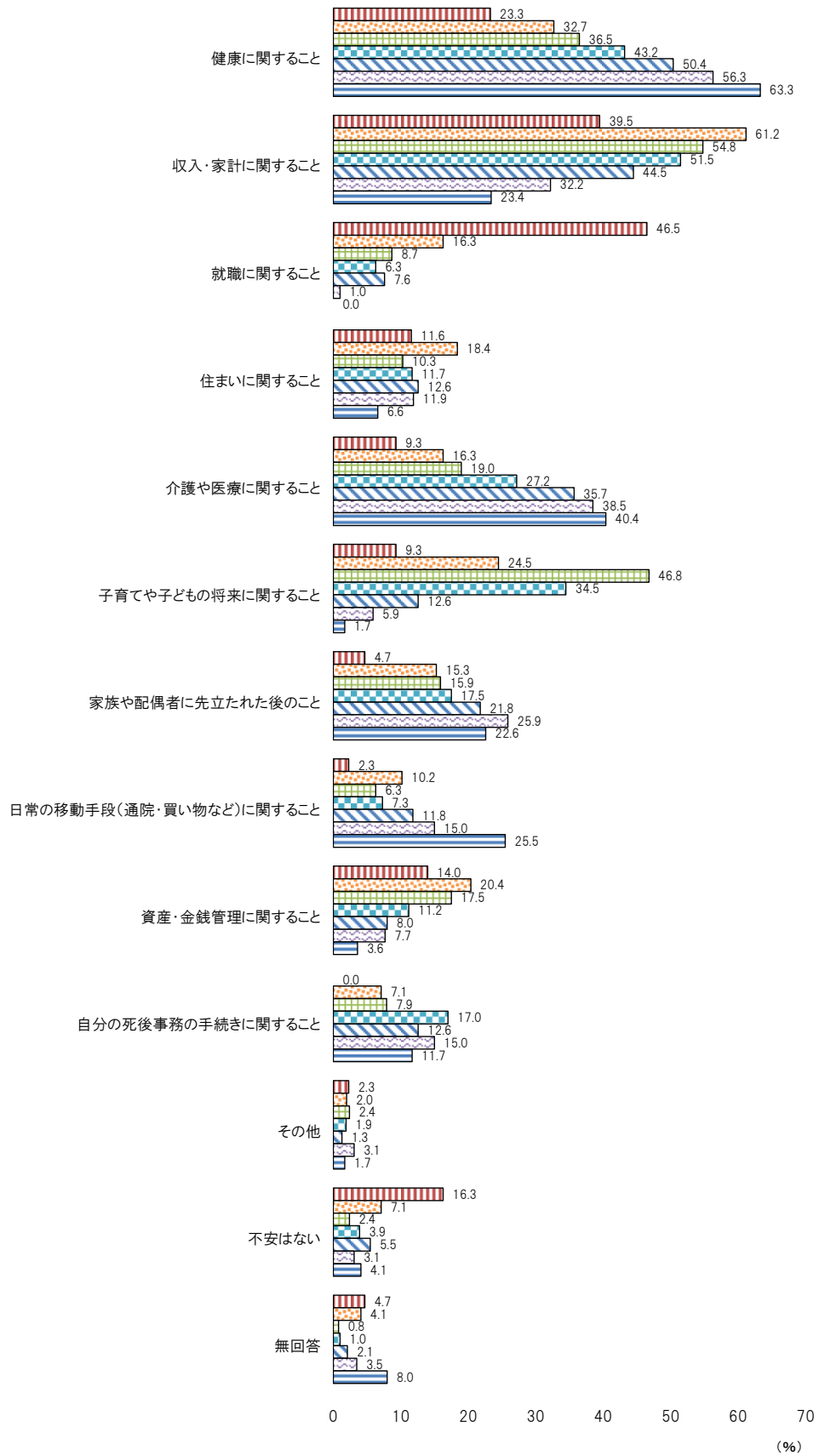
<年代ごとの上位3項目>

	1番目		2番目		3番目	
10歳代	就職に関すること	46.5%	収入・家計に関すること	39.5%	健康に関すること	23.3%
20歳代	収入・家計に関すること	61.2%	健康に関すること	32.7%	子育てや子どもの将来に関すること	24.5%
30歳代	収入・家計に関すること	54.8%	子育てや子どもの将来に関すること	46.8%	健康に関すること	36.5%
40歳代	収入・家計に関すること	51.5%	健康に関すること	43.2%	子育てや子どもの将来に関すること	34.5%
50歳代	健康に関すること	50.4%	収入・家計に関すること	44.5%	介護や医療に関すること	35.7%
60歳代	健康に関すること	56.3%	介護や医療に関すること	38.5%	収入・家計に関すること	32.2%
70歳以上	健康に関すること	63.3%	介護や医療に関すること	40.4%	日常の移動手段（通院・買い物など）に関すること	25.5%

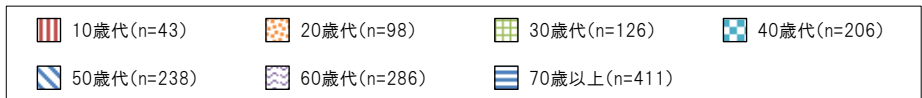
問28 将来についてどのような不安があるか



問28 将来についてどのような不安があるか



(%)



問 29 どのようなことを行政に支援・充実してほしいですか。（〇は3つまで）

全体では「あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口」が 38.2%で最も高く、ついで「さまざまな福祉サービスの利用に関する手続きの案内」が 28.9%、「相談方法の充実」が 22.1%となっている。

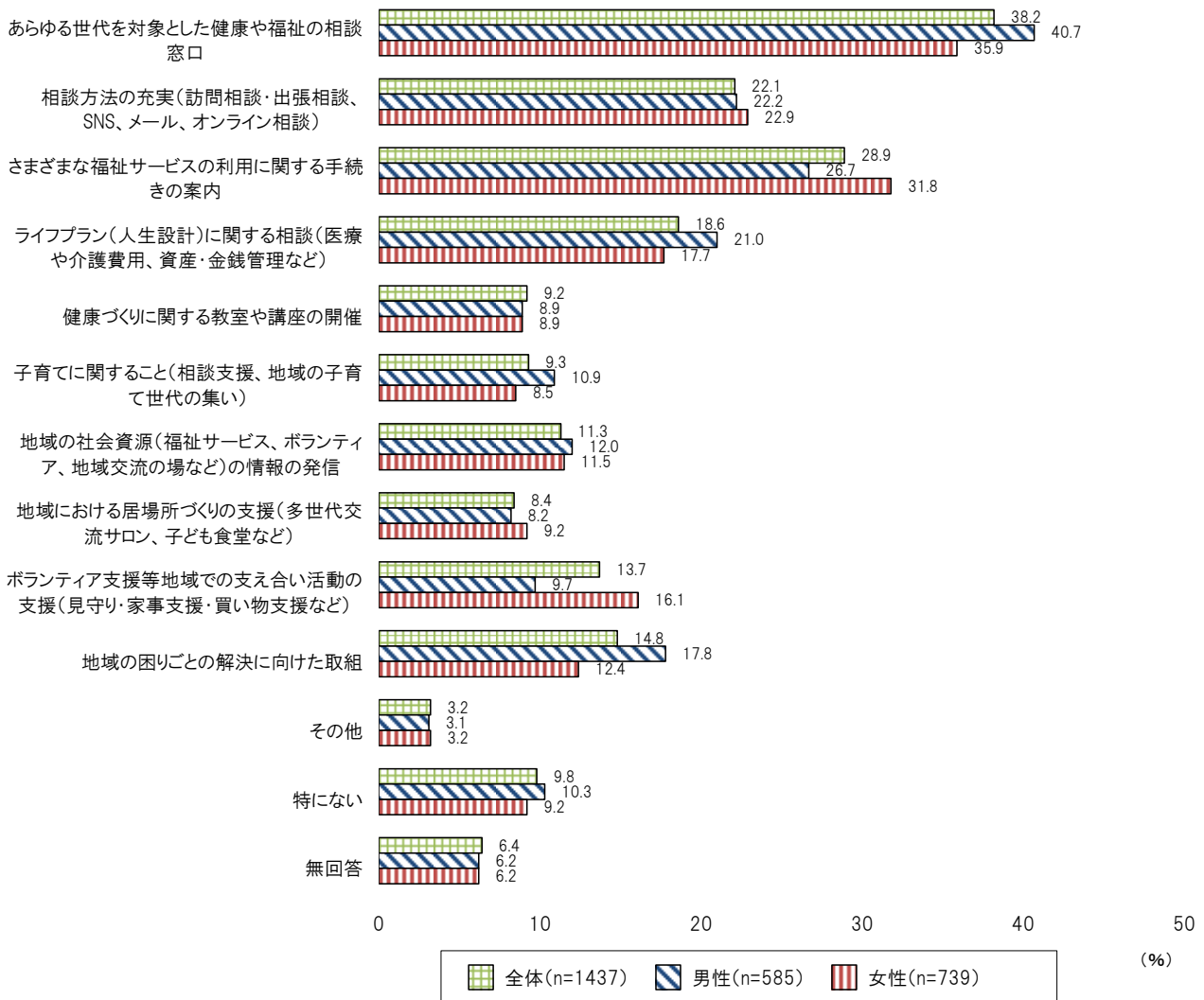
性別にみると、3番目以内に入る項目は、項目、順番ともに同じであった。男女の間で差が大きかった項目は、「地域の困りごとの解決に向けた取組」で 5.4 ポイント、「あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口」で 4.8 ポイント男性の方が高く、一方で、「ボランティア支援等地域での支え合い活動の支援」で 6.4 ポイント、「さまざまな福祉サービスの利用に関する手続きの案内」で 5.1 ポイント女性の方が高くなっている。

年代別にみると、いずれの年代でも「あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口」は 3番目以内に入っている。1番目の項目をみると、40歳代より上の年代では「あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口」、30歳代は「子育てに関すること」、20歳代は「相談方法の充実」、10歳代は「特にない」となっている。

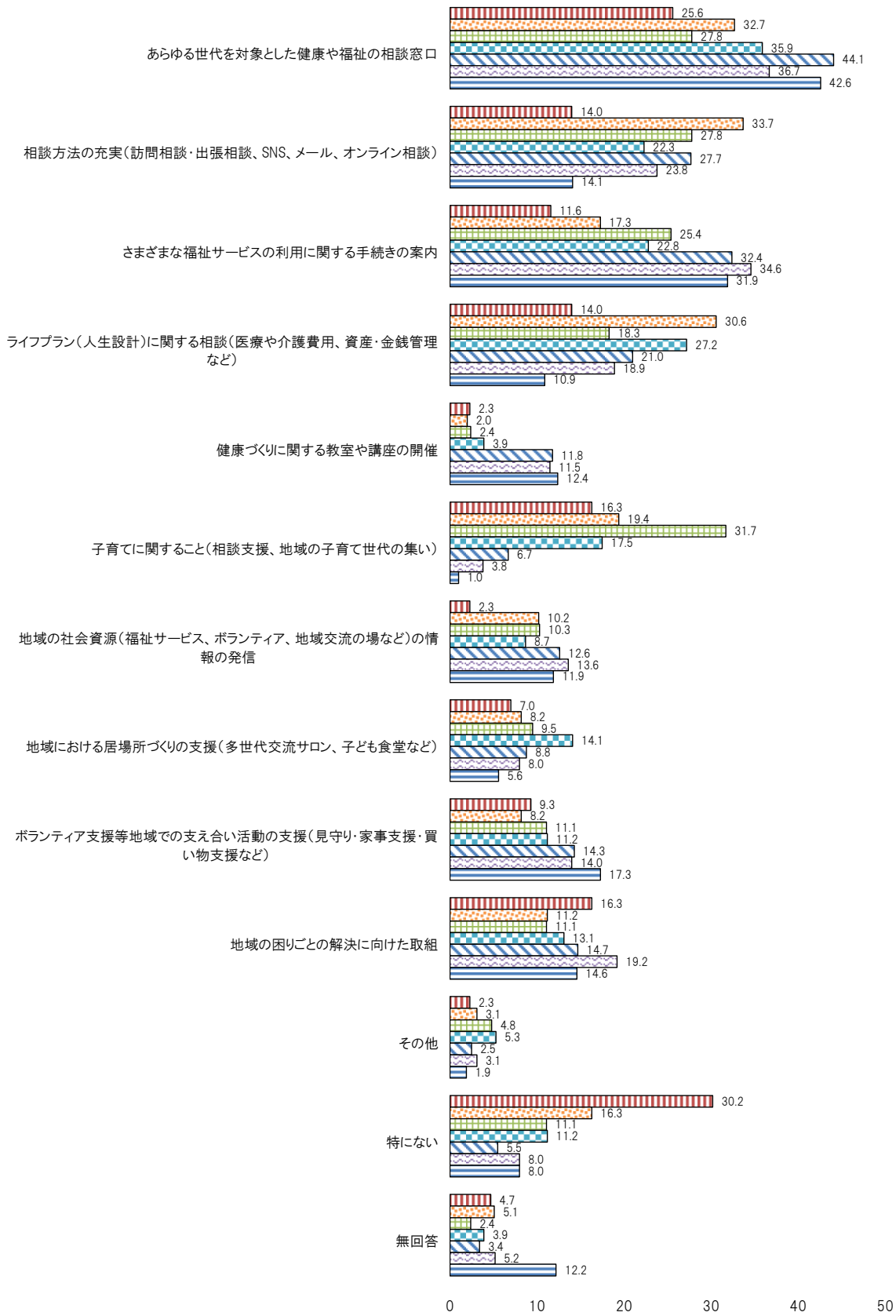
<年代ごとの上位3項目>

	1 番目		2 番目		3 番目	
10 歳代	特にない	30.2%	あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口	25.6%	子育てに関すること（相談支援、地域の子育て世代の集い）	16.3%
					地域の困りごとの解決に向けた取組	16.3%
20 歳代	相談方法の充実（訪問相談・出張相談、SNS、メール、オンライン相談）	33.7%	あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口	32.7%	ライフプラン（人生設計）に関する相談（医療や介護費用、資産・金銭管理など）	30.6%
30 歳代	子育てに関すること	31.7%	あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口	27.8%	/	/
			相談方法の充実	27.8%		
40 歳代	あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口	35.9%	ライフプラン	27.2%	さまざまな福祉サービスの利用に関する手続きの案内	22.8%
50 歳代	あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口	44.1%	さまざまな福祉サービスの利用に関する手続きの案内	32.4%	相談方法の充実	27.7%
60 歳代	あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口	36.7%	さまざまな福祉サービスの利用に関する手続きの案内	34.6%	相談方法の充実	23.8%
70 歳以上	あらゆる世代を対象とした健康や福祉の相談窓口	42.6%	さまざまな福祉サービスの利用に関する手続きの案内	31.9%	ボランティア支援等地域での支え合い活動の支援（見守り・家事支援・買い物支援など）	17.3%

問29 行政に支援・充実してほしいこと



問29 行政に支援・充実してほしいこと



(%)

